

2025 年度 授業コード: 21100100

授業科目	＊看護形態機能学Ⅰ					実務家教員担当科目	○
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	定永 敦司						
授業概要	看護師として社会の人々の健康の保持と増進を目指し、病を抱える人の日常生活を支える役割を果たすためには、人間の身体の機能および、身体に生じている病態を理解した上で、その身体に適した援助を実践することが重要です。看護形態機能学では、一年間を通じて器官（臓器）系統別にだけでなく、日常生活の行動から身体を把握する視点を通して、人体の構造と機能についての理解を深め、看護に必要な基礎的な知識を習得することを目的としています。前半の「看護形態機能学Ⅰ」では、日常生活の中で馴染みの深い、栄養、呼吸、循環、内臓機能の調節、その正常な生体機能について解説します。実務家教員として、25 年余、高次機能病院の医師として勤務した経験を通じ、医療実践の基盤となる体系的な知識の習得のみならず、生命の神秘に触れ、また個別性の高い現場において求められる医療専門職としての視点や姿勢について共に考える機会を作りながら講義を進めます。						
授業形態	対面授業			授業方法	自主学習支援のため、講義資料の一部を Classroom にアップします テーマを提示し、グループワークやディスカッションを行います 解剖実習の見学を行います		
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	1 人体の基本構造を説明できる 2 栄養の消化と吸収について説明できる 3 呼吸と血液のはたらきについて説明できる 4 血液の循環とその調節について説明できる 5 体液の調節と尿の生成について説明できる 6 内臓機能の調節について説明できる 7 解剖実習の見学を通じ、教科書で学んだ知識の理解を深め、主な人体の器官の構造と機能について説明できる 8 2～6 について、日常生活の活動とリンクをさせて、説明できる 9 身体の形態と機能について網羅的に基礎的な知識を身に付ける						
理想的レベル	身体の形態・機能の知識と現場における看護・ケアとの関連を理解することができる						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験			60				
小テスト			30				
レポート			10				
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物							

	末梢循環系の構造
第 17 回	テーマ：血液の循環とその調節（４） 血圧の調節
第 18 回	テーマ：血液の循環とその調節（５） リンパとリンパ管 血液と循環器のまとめ
第 19 回	テーマ：体液の調節と尿の生成（１） 腎臓の構造と機能
第 20 回	テーマ：体液の調節と尿の生成（２） 糸球体・尿細管・傍糸球体装置の構造と機能
第 21 回	テーマ：体液の調節と尿の生成（３） クリアランスと糸球体濾過量
第 22 回	テーマ：体液の調節と尿の生成（４） 排尿路
第 23 回	テーマ：体液の調節と尿の生成（５） 脱水・電解質・酸塩基平衡 腎臓・泌尿器のまとめ
第 24 回	解剖実習見学の講義として、学習した臓器の復習、まだ学習していない臓器の予習を行う
第 25 回	解剖実習見学
第 26 回	解剖実習見学
第 27 回	解剖実習見学
第 28 回	解剖実習見学
第 29 回	消化器、呼吸器、血液の復習
第 30 回	循環器、腎・泌尿器系の復習
テキスト	ISBN978-4-89632-896-77 からだがみえる 人体の構造と機能 第 1 版 編集：医療情報科学研究所 MEDIC MEDIA
参考図 書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	レポート、小テスト、定期試験は返却します。
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	教科書に沿ったスライドによる講義形式の授業を行います。資料は適宜抜粋して配布します。 小テスト、試験対策の演習も行います。 形態機能学（解剖生理学）は、範囲が広く、内容也多岐にわたりますが、今後、疾病学や、その治療、 ケアの実践について学ぶ際の基盤となる知識です。情報量が非常に多い講義となりますが、積極的に質 問してください。

	体系的な教科書の内容と併せて、自分自身の生活や身体を通して多面的に理解を深めることが大切です。 講義範囲について、講義後に講義で聴いた内容を教科書及び参考資料なども参照し、復習してください。基本的に毎回小テストを行います。 7月に解剖実習の見学を予定しています（日程が変更になる場合があります）。解剖実習に関連したレポート課題があります。解剖学実習見学は、大変貴重な学びの機会となります。 将来、人の命に関わる医療職に就く自覚を持ち、十分な予習をして臨んでください。意欲的な取り組みに期待しています。 実際に患者さんを目の前にした時の看護の實踐に、この講義の中で得た知識をどのように生かせるのか、共有しながら双方向性に講義を進めます。 これから人の身体・命に触れる専門職としての意識を培っていくスタートになるよう、意欲的な取り組みに期待しています。
学生への メッセー ジ・コメ ント	